

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成22年度:147.

視力障害者をもつ患者でも識別がしやすいナースコールの検討

内桶園己、飴村 光、中林美鈴、乗田典子

# 視力障害をもつ患者でも識別がしやすいナースコールの検討

旭川医科大学病院 8階東病棟 内桶 園己、飴村 光、中林 美鈴、乗田 典子

## 【目的】

視力障害をもつ患者が安全安楽に入院生活を過ごせるように、時間帯に関わらず識別しやすいナースコール（以下コール）を検討し、その効果を検証する。

## 【方法】

コールの種類を通常のもの（Aタイプ）、スイッチ部分のみ蓄光シートを貼り他の部分は赤いビニールテープを貼ったもの（Bタイプ）、蓄光シートとビニールテープを交互に貼ったもの（タイプC）、全面に蓄光シートを貼ったもの（タイプD）、の4タイプを作成した。眼科手術後、4種類中の1種類をランダムに選択し、2日間使用後にアンケート調査を行いコールの種類別に群を分け統計学的処理を行った。

## 【結果】

日中の識別のし易さはAタイプに対しBタイプ、Cタイプが有意に識別しやすく、夜間の識別のし易さはAタイプに対し3種類すべてが有意に識別し易かった。

## 【考察】

日中では赤く着色することが識別に有効であると示唆された。夜間ではボタンだけでも発光していれば識別に有効であることがわかった。全体を発光させても睡眠を阻害する原因にはならないことが分かったが、発光面積が増えるほどコストがかかるため必要最低限の面積のみ発光させるのが望ましいといえる。

## 【結論】

視力障害をもつ患者のコールは、日中では着色、夜間では一部分でも発光させることが効果的であり、着色と発光両方を併せ持つものが常時識別し易いナースコールである。